

図書だより

最上校図書委員会 No.22 2月3日



2月図書館企画 バレンタイン特集

文豪が遺した「愛の物語」展

人を愛することの切なさを教えてくれる。文豪が描いた「純愛」



《 堀辰雄 》 「風立ちぬ・美しい村」

☆本当のロマンが書きたかった。散文の抒情詩人。
私は彼女と心臓の鼓動をさえ共にした。
それは死の味のする幸福だった——。
サナトリウムで育まれた奇跡的な愛。

《 夏目漱石 》 「それから」

☆100年愛される国民作家の登場。
平岡、僕は君より前から、三千代さんを
愛していたのだよ。



恋人はいま親友の妻。あなたならどうする？ ラストシーンは、衝撃／納得？



《 武者小路実篤 》 「愛と死」

☆理想の実現のために、村まで作った文学者。
一瞬にして齢を取ってしまった。それほどの恋だった。
そして人間というものは、無常なものであり、憐れなもの
であると思うのである。恋愛の真髄に迫る不朽の名作。

愛によってはこんなにも狂ってしまうのか。文豪が綴る「倒錯した愛」

《 田山花袋 》 「蒲団」

☆実体験赤裸々な告白に読者一同衝撃。

とにかく時機は過ぎ去った。かの女は既に他人の所有だ！
主人公の竹中時雄は、34、5歳のくたびれかけた文学者。
生活は単調で、家庭は子供が3人もあり、もはや新婚の
甘い夢も覚め果てた。不満だらけの彼は、おりしも自分
を慕ってやって来た若い女弟子・芳子にひそかに恋をする。



令和元年度

新庄北高最上校 校内多読賞発表

個人賞

順位	学年	出席番号	名前	冊数
1位	2年	18番	矢口 瑞基	61冊
2位	2年	15番	古瀬 泰斗	54冊
3位	2年	17番	水澤 かおり	39冊
4位	1年	8番	吉田 愛海	36冊
5位	2年	13番	高橋 美佳	30冊
6位	2年	20番	山口 力	28冊
7位	2年	12番	高橋 昂	20冊
8位	2年	7番	後藤 星桜	19冊
9位	2年	16番	細谷 涼	17冊
9位	1年	3番	井上 瑠奈	17冊

クラス賞

順位	学年	冊数	一人平均冊数
1位	2学年	317冊	15.0冊
2位	1学年	70冊	8.8冊
3位	3学年	93冊	4.0冊

生徒貸出冊数 合計 480冊 一人平均 9.2冊

(平成31年4月～令和2年1月31日までの統計です。)

※3年生は3月2日、1・2年生は3月24日に表彰します。

※来年度も、多数の図書館利用をお待ちしております。



文豪の「 病み 」

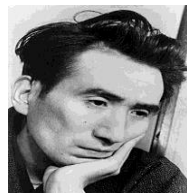
心の深淵を覗き込んだとき、人はどうなるのか。文豪が見つめた「自意識の病み」

《 太宰治 》 『 人間失格 』

☆人間の罪意識を芸術にまで昇華させた文豪。

「恥の多い生涯を送って来ました」

人間として失格だ、そう自覚する男が自らの生涯を語る。無頼の生活に明け暮れた太宰自身の苦悩を描く内的自叙伝。



《 梶井基次郎 》 『 檸檬 』

☆感覚的なものと知的なものが融合した簡潔な描写と詩情豊かな澄明な文体。

「なぜだかそのころ私は、見すばらしく美しいものに、強くひきつけられたのを覚えている」

梶井が京都に下宿していた時の鬱屈した心理を背景に、一個のレモンと出会ったときの感動や、それを洋書店の書棚の前に置き、鮮やかなレモンの爆弾を仕掛けたつもりで逃走するという空想が描かれている。

《 横光利一 》 『 機械 』

☆若者たちのカリスマだった。「文学の神様」

「誰かもう私に代わって、私を替えてくれ」

新手法を駆使した実験小説で、文学的独創性を確立し注目された横光の代表的作品。



《 中島敦 》 『 山月記 』

☆古代と現代の東西文学を一人で融合させた男。

「一体、獣でも人間でも、もとは何か他のものだったんだろう」

唐代、詩人となる望みに敗れて虎になってしまった男・李徴が、自分の数奇な運命を友人の哀愴に語るといふ変身譚である。



文豪たちのオススメ



《 樋口一葉 》 『 たけくらべ 』

☆約2年で一生残る小説を書いた天折の天才。

吉原の廓に住む14歳の少女美登利と僧侶の息子藤本信如との淡い恋を中心に、東京の子供たちの生活を吉原を背景に描き出した作品。



《 谷崎潤一郎 》 『 春琴抄 』

☆最高峰の美文で綴られる耽美的な退廃の世界。

盲目の三味線奏者・春琴に丁稚の佐助が献身的に仕えていく物語の中で、マゾヒズムを超越した本質的な耽美主義を描く。



《 菊池寛 》 『 恩讐の彼方に 』

☆流行作家で天才編集者だった文壇の巨人。

耶馬溪にあった交通の難所に、青の洞門を開削した実在の僧である禅海の史実に取材した作品。



《 芥川龍之介 》 『 羅生門 』

☆古典主義によって文学に新たな命を与えた男。

生きるための悪という人間のエゴイズムを克明に描き出した。



《 川端康成 》 「 伊豆の踊り子 」

☆世界が酔い痴れた「美しい日本の私」

伊豆へ一人旅に出た青年が、修善寺、湯ヶ島、天城峠を越え湯ヶ野、下田に向かう旅芸人一座と道連れとなり、踊子の少女に淡い恋心を抱く旅情と哀愴の物語。



《 小林多喜二 》 「 蟹工船 」

☆労働者の抵抗を描いたプロレタリア文学者。

特定の主人公がおらず、蟹工船にて酷使される貧しい労働者達が群像として描かれている点が特徴的である。

